

審査項目

審査項目（大項目）	審査項目（小項目）		審査内容
1	製品	① 実績 ② 製品コンセプト ③ 操作性 ④ 機能性 ⑤ 柔軟性・拡張性 ⑥ 要件確認書	① 4年制大学において令和4年5月1日時点で導入している件数（国公私別、地域別） ② 過去5年間のユーザー全体数の推移 ③ 社会科学系4年制大学の実績 パッケージ内容、システム構築の考え方、バージョンアップ時期 （これまでパッケージソフトに吸収してきた主な課題と対策等の実績、今後の改善方針） システム画面・帳票の視認性、操作方法の簡易性、メニュー構成の分かりやすさ メニュー内容、機能の充実度 ① システム画面、帳票レイアウト、マスタ等の設定変更の自由度。導入後に学部・学科等の組織の改組があった場合の設定変更の柔軟性も評価の対象とする。 ② 仕様書以外の機能について、拡張可能機能があれば評価の対象とする。 カスタマイズの少ない順に評価する。
2	保守	⑦ 導入対応 ⑧ 保守・サポート ⑨ セキュリティ対策 ⑩ 保守期間	① 導入に向けての組織体制（総括責任者、プロジェクトマネージャー、担当者等、対応人員の経験・ノウハウ）、大学側に求める業務量、打合せ内容・回数の提案 ② 大学スケジュールに支障のないよう配慮し、確実に本格稼働できる構築スケジュールの提案 ③ 教職員の操作研修（回数、内容、時期）、マニュアル整備の提案 ④ 職員の労力削減が図られる工夫が見られれば評価の対象とする。 ① 稼働後の保守・サポートの組織体制の提案 （適正な保守を維持するために必要な配置要員及び対応人員の経験・ノウハウ、役割分担など） ② 運用サポート（日々の運用サポート、障害が発生した場合の対応方針について） ③ カスタマイズ対応（OSの変更、新学習指導要領に伴う入試など全国的に発生しうる制度変更を保守費の中にどれだけ含めているか、また発生しうる有償対応について提示すること） データアクセス制御、データ漏えい対策、バックアップ対策についての対応方針 保守期間の延長可能期限を提示すること。延長期間設定および新規更新に関する考え方、それに対するサイクルコストを提案すること。
3	費用	⑪ 導入費用・保守費用	① 導入費用は予算上限額の範囲内で、本調達に要する一切の費用を積算し、導入時に必要なデータ移行費を含めること。 ② 保守費用は導入後5年間（令和5年度～令和9年度）の保守管理における費用を提示すること。